北村朋幹（ピアノ）

Tomoki Kitamura, *piano*

愛知県生まれ。3歳よりピアノを始め、浜松国際ピアノ・コンクール第3位、シドニー国際ピアノ・コンクール第5位ならびに3つの特別賞、リーズ国際ピアノ・コンクール第5位、ボン・テレコム・ベートーヴェン国際ピアノ・コンクール第2位などを受賞。

第3回東京音楽コンクールにおいて第1位ならびに審査員大賞(全部門共通)受賞、以来日本国内をはじめヨーロッパ各地で、オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、そして古楽器による演奏活動を定期的に行っている。その演奏は「類稀なる時間の感覚。まるで素晴らしい指揮者によるオーケストラの演奏を聴いているよう（パヴェル・ギリロフ）」「卓抜な詩的感性、そして哲学的叡智を具えた芸術家（濱田滋郎）」などと評されている。

2020年9月、東京オペラシティ文化財団主催「B → C：バッハからコンテンポラリーへ」における、4台の鍵盤楽器を用いた、ケージの作品を中心としたプログラムによる画期的なリサイタルは「我が国のピアノ演奏史において重要な一夜と言っても過言ではない（伊藤制子）」と高く評価された。2022年10月、びわ湖ホールで行った「北村朋幹　20世紀のピアノ作品（ジョン・ケージと20世紀の邦人ピアノ作品）」が、第22回(2022年度)佐治敬三賞受賞。 2019年からは自身のリサイタル企画「Real-time」を展開している。

録音は「遙かなる恋人に寄す―シューマン「幻想曲」からの展望―」（2011）、「夜の肖像」（2014）、「黄昏に― ブラームス／リスト／ベルク作品集」（2016）、「Bagatellen」（2019）、「ケージ　プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード」（2021） がそれぞれフォンテックから発売され、レコード芸術誌をはじめとする主要な音楽メディアにおいて好評を得ている。

東京藝術大学に入学、2011年よりベルリン芸術大学ピアノ科で学び最優秀の成績で卒業。またフランクフルト音楽・舞台芸術大学では歴史的奏法の研究に取り組んだ。

これまでに伊藤恵、エヴァ・ポブウォツカ、ライナー・ベッカー、イェスパー・クリステンセンの各氏に師事。

ベルリン在住。

(2023年3月現在)